

2月27日 マルコによる福音書4章35～41節 今日の説教から
説教題：「荒れる船の中で」

今日の聖書箇所では、荒れる湖の上で「船から落ちてしまうかもしれない」という悲観的な気持ちから逃げられない弟子たちに対して、「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」とイエス様は語りかけています。イエス様に神様の力があることを信じて、イエス様であればなんとかしてくれると信じることが弟子たちには求められていました。今日の個所でイエス様が弟子たちに期待しているのは、「イエス様であればなんとかしてくれる」という「楽観的な信頼」を持つことでした。

ただ、私たちには「救い」という点において、どこまで楽観的であっていいのかという問題もあります。私たちの信じる神様が真実であり、他の宗教の信仰者に対して「私たちと同じように救われてほしい」と思うのであれば、その場合は積極的に他の信仰者に改宗を迫ることでしょう。ただ、そのように「キリスト者だけが救われる」と考える場合、イエス様に出会う機会がなかった人々に救いはないのか、という問題が出てきます。

楽観的な私は、「神様は他の宗教の信仰者にも救いの手を伸ばしている」という神様の全知全能の力を信頼したいと思っています。私たちは神様が全知全能であることも、神さまが慈愛に満ちて、憐み深い方であることも知っています。私たち自身は神様を第一に考えることが出来ないほどに罪深い存在ですが、それでもその罪を贖おうとイエス様を遣わしてくれるほどに、神様は私たちに関わろうとしてくれる方であるということを知っています。だからこそ、私たちは神様の愛が、私たちキリスト者だけではなく、その範囲を飛び越えてすべての人々に注がれていることを信じることが出来るのです。

このことに関して、マルコによる福音書9章では、洗礼を受けていない人物がイエス様の名前を語って業を行っている様子が記されています。今日の要旨の裏面、今日の個所の下に記しています。そこでイエス様は、「わたしに反対しない者は私たちの味方だ」と言っているのです。そうイエス様が力強く言ってくれるのであれば、真っ向から「イエス様などいない」、「神様などいない」と反発しない限りは、天に召されたその先でキリスト者ではない方々も神様と出会うことが出来ているのではないでしょうか。

ただ、気を付けなければいけないことに、私たちの救いは信仰が前提にあります。悔い改めと洗礼によって私たちはキリスト者となり、その死の先が消滅でも地獄でもなく、天の神様の元での安らかな生活であることを信じています。ただ、「洗礼さえ受けなければ救われる」という事ではありません。イエス様の言葉に逆らうことで、私たちは容易にイエス様の敵対者になる可能性があります。私たちの側からイエス様の手を振り払ってしまった時、その先に待っているのは救いの希望ではなく、滅びの絶望でしかありません。

イエス様の言葉に従っているようで、気がつけば「自分の中のイエス様」の声に従っている時があります。「自分の信仰が絶対に正しい」という思いは、「自分が絶対に正しい」という思いへと変わっていきます。神様ではなく自分の正しさに固執し始めた時、私たちはその正しさを崇拜する「偶像崇拜」の罪へと向かって行くことになります。そうならないためにも、私たちは繰り返し神様の御心がいったいどこにあるのかを問い合わせ続ける必要があるのです。

いま、この世界は大荒れの湖へと突入しました。私たちはその湖の上を、教会という小さな小舟で進み続けています。荒れる世界情勢の中で、疫病による不安の中で、時に私たちは何が正しいのか、何を頼るべきなのか分からなくなることがあります。その荒れる船の中で、私たちにはイエス様への信頼が、神様への信頼が確かにあります。「イエス様は確かに私たちと共にいる」「神様なら何とかしてくれる」、その信仰的な楽観視によって、私たちは今日も希望に導かれて歩むことが出来ます。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 4章 35～41節

- 35:その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言わされた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起り、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艤の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのでですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凧になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

マルコによる福音書 9章 38～41節

- 38:ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようとした。」イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。はっきり言っておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」